



## 穂先は進化したカーボン 瞬鋭カワハギEX

●ダイワのテクノロジー、新開発の高弾性カーボンソリッド「メガトップR」を搭載した瞬鋭シリーズの誕生だ。カワハギのアタリを瞬時に伝え、ハイレスポンス、ハイスピードなカワハギ釣りを実現。Sの自重49グラムはダイワのカワハギ竿最軽量、「軽さは感性」を極めた1本だ。9月発売予定。

## 究極のバーサタイルモデル 極鋭カワハギEX VS

●極鋭カワハギシリーズのオールラウンドモデルVSに究極の1本が登場。従来のVSに比べ、穂持にやや張りを持たせ、ミリ単位の誘いが可能となった。SMT、AGSはもちろん、握りやすいゼロシート、SVFナノプラスの新搭載で自重55グラムを実現した。8月発売予定。

◀リールはアドミラ100(右)、アドミラ150を使い分けた

| アイテム              | 全長(m) | 総数(本) | 仕舞(cm) | 自重(g) | 先径/元径(mm) | オモリ負荷(号) | カーボン有率(%) | メーカー希望本体価格(円) |
|-------------------|-------|-------|--------|-------|-----------|----------|-----------|---------------|
| 瞬鋭カワハギ EX S - 172 | 1.72  | 1     | 172    | 49    | 0.9/9.8   | 10 ~ 35  | 99        | 80,000        |
| 瞬鋭カワハギ EX H - 175 | 1.75  | 1     | 175    | 55    | 0.9/9.8   | 20 ~ 40  | 99        | 81,000        |
| 極鋭カワハギ EX VS      | 1.75  | 1     | 175    | 55    | 0.5/9.8   | 20 ~ 35  | 99        | 88,500        |

## カワハギ用品も続ぞく



- ①カワハギ3本仕掛けSS  
快適フックピースを使用した3本バリのスタンダード仕掛け
- ②D-MAXカワハギ糸付き25SS白ケムラ  
糸付きハリにケムラ留めがリバイバル。25本入りで、ハリは4種類を用意
- ③D-MAXカワハギ糸付き30SPロング  
アユバリで話題のスペシャルフィニッシュ加工で驚異の刺さりを実現。ハリス長10センチ、30本入りで、ハリは4種類(パワーワイドフックが追加)
- ④アミノソルトガーリックシュリンプ  
アミノ酸に加え、ガーリックとシュリンプを足してさらなる集魚アップ
- ⑤カワハギシンカー-SK/RV  
安定度の高いSK(カジ型)とアピール力の高いRV(ラトルバージョン)

ボンソリッド。高強度、高弾性のカーボンになって手感が上がります。SMTとは異なる振動が手に伝わるアタリの出方をするんですよ。見たところ、Hは文字どおり硬めの仕上がりで宙釣り、深場、ワッペン攻略にも有効と思える。2枚目に25センチ級の良型を釣って次は瞬鋭S-172だ。

「産卵後の食いの渋い時期、とくに今日のようなアタってもハリ掛かりしないと

「アタリの出方でSMTのカバーしきれない部分を補うのがメガトップR、もちろん逆もあるということですよ」と林さん。極鋭ファンにはぜひ一度使ってもらいたいと2人は口をそろえた。

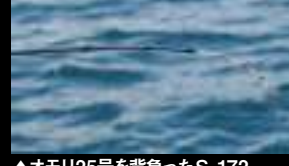
こちらは柔軟性のある穂先で目感度のよさもうかがえる。久しぶりのカワハギでスタートでもたついた林さんにこれまでにない大きな引き。釣り上げたのは32センチの大型だった。「これで瞬鋭にチェンジできます」と胸をなで下ろす。

当日は潮の動きが悪く長い食い渋りに見舞われたものの、顔を出すのはいずれも20〜30センチの良型。新製品のお披露目とシーズン前の腕慣らしには十分だったようで、荒井さんは12枚で竿頭、林さんも7枚の釣果を得て14時半に沖揚がりとなった。帰路の途中、もう一度新製品の特徴について話を伺った。

「手感度に関しては瞬鋭が勝っているでしょう。でもカーボンなのでややアタリを弾くようなときはSMTのしなやかさが勝るでしょう」と荒井さん。



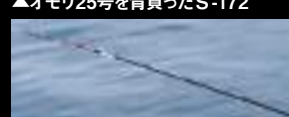
▲伝達性能の高いメガトップRが微細なアタリも逃さず脅威の手感度を実現



▲オモリ25号を背負ったS-172

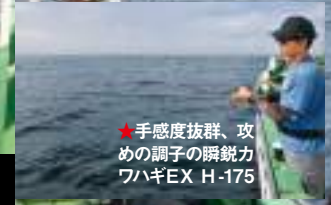


▲少しだけ曲がる

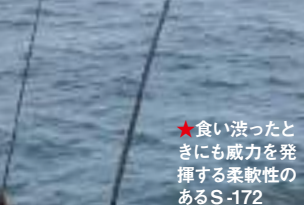


▲しなやかさはSMTに分がある

▶いずれのモデルもゼロシートキャビティリガー採用



★手感度抜群、攻めの調子の瞬鋭カワハギEX H-175



★食い渋ったときにも威力を発揮する柔軟性のあるS-172



## ファン注目の新製品登場! 瞬鋭カワハギEX & 極鋭カワハギEX VS

★荒井さんは3種類の竿を使い分けて良型を上げていった

## 林良一、荒井良乃介 ダイワ最先端ロッドで腕慣らし

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.95

# カワハギ最前線

at t 三浦半島久比里出船 →



★30センチクラスの大型が目立った



★林さんは極鋭カワハギEX VSでスタート

●いよいよカワハギ戦線がスタート。今期もダイワからファン注目のカワハギ竿新製品が多数登場した。カーボン穂先をまとった「瞬鋭カワハギEX」と「極鋭カワハギEX VS」である。今回は名手2人がそのスペックを紹介する。

カワハギ釣りのメッカ、三浦半島久比里、山下丸の船着き場にはダイワフィールドテスターの林良一、荒井良乃介の名手2人の姿があった。

「いよいよシーズンですね。今年のダイワ、カワハギロッドは要チェックですよ」と林さん。「とくにカワハギフックにおすすめしたいのがこの2機種です」と荒井さんが取り出したのが「極鋭カワハギEX VS」と「瞬鋭カワハギEX」2シリーズ3アイテムの計3本。いずれもハイエンドモデル「EX」の名を持つ最高峰の製品だ。

6名の同船者とともに7時半に出船し、10分ほど走った鴨居沖水深17メートル前後で釣り開始となる。まず林さんが手にしたのは極鋭カワハギEX VS。「極鋭VSシリーズの進化版です。ダイワの硬さ表記「1244」ですからオールラウンドモデルといえます。自重55グラムまで軽量化、先径0.5ミリのSMTはVSI-VISUAL SE NSI-IVEと名のとおり目感度が数段よくなっています。ゼロシートも握りやすいですね」

一方の荒井さんも極鋭から手にし、早ばやと中型を1枚釣って瞬鋭H-175にチェンジ。「穂先はダイワが新しく開発した「メガトップR」というカー